

薬物乱用防止講演会

令和2年10月6日（火）に、3年生を対象として薬物乱用防止講演会を実施しました。

新潟県警察本部・少年サポートセンター・少年警察補導員の方を講師としてお招きしました。



前半はDVDを視聴しました。検挙数が多い危険薬物である覚醒剤を題材としたドラマを通して、薬物依存から脱することの難しさ、使用を繰り返すことでより多くの薬物を求めてしまう耐性の恐ろしさ、そして禁断症状・幻聴・妄想・フラッシュバック等、脳をはじめとした体へのダメージの深刻さを学びました。



後半は講師の方によるパワーポイントを使用した講演を行いました。危険薬物を使用すると脳が萎縮し、その影響で立つことができない、ろれつが回らない、記憶障害が起きるなど、正常な生活ができなくなることを解説して頂きました。また、脳のダメージは回復することはない、幻覚や妄想により自傷行為や自殺に及ぶケースがあること、無関係な他者を攻撃してしまうなど、周囲との関係を壊し、自分だけでなく社会全体に害悪を与えるとの話を頂きました。

また、危険薬物は海外からの密輸入やインターネットによる売買が多く、危険薬物の密輸入は新潟県でも起きていることを、実際の密輸入の検挙事例を通し説明していただきました。

多種多様な危険薬物の特徴

- ✚ 間違った情報（大麻はタバコより害が少ない、依存性がない等）が出回っていること。
- ✚ やめようと思っても自分の意思で依存性と耐性の悪循環から抜け出すことがとても難しく、やめてから長い時間が経っても突然フラッシュバック等の症状が出る可能性があること。

危険薬物に手を出さないために

- ✚ 友人や先輩からの誘いがきっかけであることが多い。誘惑されてもはっきり断り、関係を絶つこと。
- ✚ 薬物依存の第一歩であるタバコや酒等のゲートウェイドラッグに手を出さないこと。
- ✚ 困ったときは大人の力を借りること。周囲の大人に相談すること。